

千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度

講師ハンドブック

令和5年5月

千葉県教育庁 教育振興部生涯学習課

目 次

千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度	2
1 青少年教育	3
2 ボランティア活動の意義	5
3 千葉県立青少年教育施設の現状と今後の取組	7
4 千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度の仕組み	8
5 ボランティア活動の技術	9
6 安全管理	10

千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度

目的

千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度は千葉県立青少年教育施設が中核的役割を担い、ボランティア養成を行うことにより、未来の指導者となる青少年を育成し、千葉県全体の青少年教育を充実させるものである。

主な目標

1. 今日の青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。
2. ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや基礎的な知識・技術等を学ぶ。
3. 千葉県立青少年教育施設の現状と今後の取組について理解する。
4. 千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度の仕組みについて理解する。
5. 各施設の特性に応じた体験活動に対応するための知識・技術等を学ぶ。
6. 応急手当など救命救急に必要な知識・技術等を学ぶ。

科目と時間数

1	青少年教育	1時間
2	ボランティア活動の意義	1時間
3	千葉県立青少年教育施設の現状と今後の取組	1時間
4	千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度の仕組み	1時間
5	ボランティア活動の技術	2時間
6	安全管理	4時間
		計10時間

1. 青少年教育

目標

- (1) 今日の青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。
 - ① 青少年教育の必要性について理解する。
 - ② 青少年の課題とその要因を理解する。
 - ③ 青少年の課題への対応（体験活動の必要性）について理解する。

主な講習内容

- (1) 今日の青少年教育の課題や発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。
 - ① 青少年教育の必要性について理解する。
 - ・ 社会教育との関係性も含めて青少年教育について理解を深める。
 - ② 青少年の課題とその要因を理解する。
 - ・ 青少年の課題が生じる要因を含めて理解を深める。
 - ③ 青少年教育の課題への対応（体験活動の必要性）について理解する。
 - ・ 体験活動の必要性について理解をすること。
 - ・ 体験活動を活かした青少年の課題への取組について理解を深めること。

留意点

- (1) 青少年教育に関する基礎的な事項を、「教育の目的・目標」「対象」「内容」「方法」の観点から理解を図る。
- (2) 様々な者が参加していることを想定し、基礎的な事項をわかりやすく伝えることに留意する。また、具体的な内容を含めたりする等学習意欲を高めるようにする。

参考資料

- ・自然体験活動指導者養成講習会テキスト
自然体験活動指導者（リーダー版）（国立青少年教育振興機構）
- ・自然体験活動指導者養成講習会テキスト
自然体験活動上級指導者（インストラクター版）（国立青少年教育振興機構）
- ・「体験活動」の意義（広島県教育委員会）
- ・発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究
～「体験カリキュラム」も構築に向けて～（中間まとめ）（国立青少年教育振興機構）
- ・体験活動の教育的意義（文部科学省）
- ・体験活動を効果的に行うためのポイント（文部科学省）
- ・今後の青少年の体験活動の推進について（答申）（中央教育審議会 H25. 1. 21）
- ・学校教育における体験活動の意義
- ・生涯学習・社会教育とは（広島県教育委員会）
- ・社会教育とは
- ・子どもの体験活動を支援する社会教育の在り方
第29期青森県社会教育委員の会議 調査研究報告書（青森県教育委員会）
- ・体験活動と学びの過程
- ・心豊かな青少年の育成について～多様な学びを通して次代を担う青少年を育むために～
（栃木県教育委員会）
- ・学校で自然体験活動をすすめるために 自然体験活動指導者養成講習会テキスト
（国立青少年教育振興機構）
- ・「次代を担う自立した青少年の育成に向けて～青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について～」（答申）（中央教育審議会 H19. 1. 30）
- ・青少年白書（内閣府 HP）

2. ボランティア活動の意義

目標

- (1) ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや基礎的な知識・技術等を学ぶ。
 - ① ボランティア活動の意義について理解する。
- (2) 参加者への対応を学ぶ。
 - ① 参加者理解の必要性と対応方法を理解する。
 - ② 各年齢期の特徴を理解する。
 - ③ 参加者への配慮事項を理解する。

主な講習内容

- (1) ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや基礎的な知識・技術等を学ぶ。
 - ① ボランティア活動の意義について理解する。
 - ・ ボランティア活動の意味・定義について理解すること。
- (2) 参加者への対応を学ぶ。
 - ① 参加者理解の必要性と対応方法を理解する。
 - ・ 対人対応の基本的な知識を理解すること。
 - ② 各年齢期の特徴を理解する。
 - ・ 幼児期、学童期、青年期があり、それに応じた特徴と関わり方を理解すること。
 - ④ 参加者への配慮事項を理解する。
 - ・ 配慮を要する場合の傾向や対応について理解すること。

留意点

- (1) 特別な配慮を要する対象者への対処方法については、できるだけ多くの事例を取り上げ、紹介し、イメージをしやすいようにすること。

参考資料

- ・ ボランティア活動とは？意味や定義、種類・内容などを“わかりやすく”解説
- ・ ボランティア活動の意義とは、どうあるべき？メリットや注意点も解説！
- ・ 法人ボランティアハンドブック (国立青少年教育振興機構)
- ・ ボランティア、ご安全に！ (日本赤十字社)
- ・ わいわい Academy 講座 (手賀の丘青少年自然の家わいわい子ども塾 ボランティア)
- ・ 自然体験ボランティアをする際の注意点 (君津亀山青少年自然の家)

3. 千葉県立青少年教育施設の現状と今後の取組

目標

- (1) 千葉県立青少年教育施設の現状と今後の取組について理解する。
 - ① 千葉県立青少年教育施設の現状を理解する。
 - ② 千葉県立青少年教育施設の課題を理解する。
 - ③ 千葉県立青少年教育施設の今後の取組について理解する。

主な講習内容

- (1) 千葉県立青少年教育施設の現状と今後の取組について理解する。
 - ① 千葉県立青少年教育施設の現状を理解する。
 - ・千葉県立青少年教育施設の整備状況について理解すること。
 - ② 千葉県立青少年教育施設の課題を理解する。
 - ・千葉県立青少年教育施設のこれまでの取組について理解すること。
 - ③ 千葉県立青少年教育施設の今後の取組について理解する。
 - ・千葉県立青少年教育施設の変革について理解すること。

留意点

- (1) 千葉県立青少年教育施設のこれまでの取組に関して正確に伝えること。
- (2) 千葉県立青少年教育施設の今後の取組については具体的な内容で説明すること。

参考資料

・ 県立青少年教育施設の再編構想

(千葉県教育委員会)

4. 千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度の仕組み

目標

- (1) 千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度の仕組みについて理解する。

主な講習内容

- (1) 千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度の仕組みについて理解する。
 - ・ 共通カリキュラムについて理解すること。
 - ・ 制度の概要と登録方法について理解すること。
 - ・ ボランティア登録証について理解すること。

留意点

- (1) 千葉県立青少年教育施設ボランティア登録制度の仕組みについては、統一した資料を使って説明すること。
- (2) 登録申請書については所定の物を使用すること。

参考資料

- ・ 「ボランティア・コーディネーター」ハンドブック (国立青少年教育振興機構)
- ・ 県立青少年教育施設 新プロジェクト～教育振興計画をうけて～

(福井県【生涯学習・文化財課】)

5. ボランティア活動の技術

目標

- (1) 各施設の特性に応じた体験活動に対応するための知識・技術等を学ぶ。
- ① 体験活動（各施設の特徴ある）を体験する。
 - ② 体験活動（各施設の特徴ある）の基本的な知識・技術等を理解する
 - ③ 体験活動（各施設の特徴ある）においてボランティアとしての対応について理解する。

主な講習内容

- (1) 各施設の特性に応じた体験活動に対応するための知識・技術等を学ぶ。
- ① 体験活動（各施設の特徴ある）を体験する。
 - ・ 体験活動を体験し、活動のねらいや効果等を理解すること。
 - ・ 自然への配慮が必要なことを理解すること。
 - ② 体験活動（各施設の特徴ある）の基本的な知識・技術等を理解する。
 - ・ 体験活動を通じて、基本的な知識・技術等を理解すること。
 - ・ 体験活動の実施において使用する道具などがあることを理解すること。
 - ③ 体験活動（各施設の特徴ある）においてボランティアとしての対応について理解する。
 - ・ 体験活動においてボランティアの役割を理解すること。
 - ・ 体験活動において参加者が求めていることを理解すること。

留意点

- ・ 体験活動の技術を理解するために、十分に時間をかけ実技の体験を行うこと。
- ・ 体験活動や道具などを使用する際には十分に危険防止の措置をとること。

6. 安全管理

目標

- (1) 応急手当など救命救急に必要な知識・技術等を学ぶ。
 - ① 基本的な安全管理について理解する。
 - ② 応急手当など救命救急に必要な知識・技術を理解する。
 - ③ 普通救命講習 I を受講し、必要な知識・技術を習得する。

主な講習内容

- (1) 応急手当など救命救急に必要な知識・技術等を学ぶ。
 - ① 基本的な安全管理について理解する。
 - ・安全管理について基本的な理解をすること。
 - ・熱中症、落雷、危険動植物などについて理解すること。
 - ・体験活動にはそれぞれ危険が伴い、対策・対応において理解を深めること。
 - ② 応急手当など救命救急に必要な知識・技術を理解する。
 - ・応急処置を体験すること。
 - ・応急手当の基本的なことを理解すること。
 - ③ 普通救命講習 I を受講し、必要な知識・技術を習得する。
 - ・心肺蘇生や AED、異物除去、止血法などを理解すること。(修了証が交付)

留意点

- (1) 実際のフィールドや参加者を想定し、安全対策を具体的にイメージできるようにすること。
- (2) 応急処置の実技を通じて、安全管理の全容を理解することに重点をおくこと。
- (3) 普通救命講習 I では修了書が交付される。(有効期限：3年)